

伊豆沼・内沼 (宮城県栗原市／登米市)



写真 白鳥の群れ 写真提供：宮城県観光プロモーション推進室

伊豆沼・内沼は、宮城県内陸の北部に位置し、栗原市と登米市にまたがる東北最大の低地沼地で、国内で一、二位を争う渡り鳥の飛来地として有名である。沼には数々の水生植物が群生し、水鳥や魚類の生息に適した環境を形成していることから、水鳥が多く集まる「水の楽園」として、1985年9月にラムサール条約^{※1)}の条約湿地として登録された。

飛来する鳥類は、ハクチョウ(写真)とマガンが代表的で、特にマガンは数万羽が飛来し、11月から1月にかけて越冬する「朝の飛び立ち」^{※2)}と「夕方のねぐら入り」は、宮城県を代表する絶景の一つである。夜、沼で休息し、日の出30分前頃から餌を求め周辺の水田へ一斉に飛び立つ。その時の羽音と鳴き声は荘厳で、環境省の「残したい“日本の音風景100選”」に選定されている。

夏は沼一杯に蓮が咲く。間近で鑑賞を楽しむ沢山の観光客を乗せた小型の遊覧船が行き交う。

※1) 湿原や干潟は水鳥をはじめ多くの生物の拠り所となっており、渡り鳥などは国境に関係なく飛来する。そのため世界規模で湿原や干潟などの自然環境を守る取り組みが求められ制定された条約。

※2) 表紙写真 写真提供：宮城県観光プロモーション推進室

<参考>

公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

<http://izunuma.org/>

環境省「残したい日本の音風景 100 選」

https://www.env.go.jp/air/life/nihon_no_oto/

■アクセス:

●JR東北本線新田駅から車約10分

●東北自動車道築館ICから約15分



(表紙の写真)
伊豆沼・内沼

場所：宮城県栗原市